



本願寺帯広別院だより

〒080-0803 帯広市東3条南5丁目3 TEL: 0155 (23) 3720
FAX: 0155 (21) 4989 発行人: 輪番・石川勝紀

別院公式 LINE



本願寺帯広別院・十勝組合同

戦後八〇年

戦争犠牲者追悼法要

（非戦・平和を願うつどい）

帯広別院本堂 於

10月23日（木）

13時 追悼法要

引き続き 講演会

講師 吉澤澄子さん 袁〇一哲さん

15時半頃 閉会

終末時計というも

のをご存知でしょうか。

人類滅亡までに残され

た時間を、様々な分野

の専門家が過去一年の

世界情勢に基づき毎年

発表しています。今年

は1秒進み、残り時間

はたったの89秒となり

ました。その要因は核

兵器使用のリスクが増

大していることや、人

工知能の兵器利用、気

候変動などです。

今こそ平和について

私たち一人ひとりが向

き合い、危機を他人ご

とせず、広く伝え考

えあう必要があります。

非戦・平和を願うつど

いにご参加願います。

（次頁につづく）

9月のご案内

1日(月) 2日(火) 13時半〈講堂〉

18日(木) 13時20分〈鐘楼堂〉※1～30日、本堂にて「非戦平和パネル展」を開催

20日(土)～23日(火) 13時〈本堂〉

布教使 北海道教区根室組正光寺 鈴木将弘 師

27日(土) 13時半開場 14時開演〈本堂〉

落語「鏡の中の親鸞～歎異抄より～」 桂 春蝶 さん

10月のご案内

1日(水) 2日(木) 13時半〈講堂〉

13日(月)～16日(木) 13時〈本堂〉

布教使 北海道教区上川南組本誓寺 青木智幸 師

帯広別院・十勝組合同 戦後80年戦争犠牲者追悼法要～非戦・平和を願うつどい～

23日(木) 13時追悼法要 引き続き講演会〈本堂〉

月例 布教
平和の鐘
秋季彼岸会法要

公開講座

月例 布教
秋季永代経法要

令和6年能登半島地震により
被災された皆さまに
衷心よりお見舞い申しあげます

戦後八〇年戦争犠牲者追悼法要 10月23日(木)

ご挨拶

2025年、日本は戦後80年を迎えます。私たち浄土真宗本願寺派には、戦前、戦中と無批判に国策に従い、仏教の名のもとに(教義解釈をゆがめて)戦争を正当化し、積極的に加担した負の歴史があります。

その反省から戦後「平和」に向けたさまざまな取り組みを行ってきました。

このたびの「戦後八〇年戦争犠牲者追悼法要」では、国家や民族を超えて、アジア太平洋戦争をはじめとするあらゆる戦争の犠牲となられたすべてのいのちを追悼いたします。

また、引き続いた「非戦・平和を願うつづい」では、「帯広空襲を語る会」の吉澤澄子さん・蓑口一哲さんをお迎えして「戦争の悲惨さと平和の大切さ」についてご講演をいただきます。

80年前、この十勝地方でも、米軍機の空襲により多くの尊いいのちが犠牲となりましたが、時間の経過とともにそのことを知る人は大変少なくなってきました。悲しみと苦しみしか残らない悲惨な戦争は決して起こしてはなりません。私たちは過ちを繰り返す凡夫であります。世界では、未だに戦火は消えず、今もなお多くの悲しみを生んでいる現状の中で、すべてのいのちを尊ぶ念仏の教えをいただく私たちは、常に学びを深めなければなりません。

「兵我無用(兵隊も武器も用いることがない平和な世界)」を願われたお釈迦様の心を、先人の辛い体験を通して共に学ばせていただきます。

皆さまのご来場をお待ちしております。

合掌

本願寺帯広別院輪番 石川勝紀

十勝組組長

桃井直行

《講師紹介》

◆吉澤澄子さん (よしざわ・すみこ、帯広市在住)



昭和7年、帯広生まれ。昭和20年、帯広空襲を経験する。昭和52年に戦争体験記録集出版に関わり、帯広空襲の聴き取りを開始。執筆や語り部として活動。平成24年まで「帯広空襲を語る会」に世話人事務局として関わる。

◆蓑口一哲さん (みのぐち・かずのり、帯広市在住)



昭和35年、北見市生まれ。昭和57年、中央大学文学部史学科卒、北海道公立高校教諭となる。アジア、中東をめぐる、戦地取材・戦争体験者掘り起こし・民族紛争ルポ等始める。NHKBSドキュメンタリー番組の製作協力や書籍執筆など精力的に活躍中。

お寺の掲示板リニューアル

お気づきの方も多いかと思われませんが、電信通り沿いの掲示板がリニューアルしました。この度は妙好人として知られる「六連島のお軽さん」から言葉をいただきました。悩みの中で聴聞し続けたお軽さんの歌をお味わいください。



ご法話



お彼岸って、なんのため？ 文：渡邊了海

春と秋のお彼岸。お寺でお参りしたり、お墓に行ったりと、小さい頃は「なんとなく家族で行く行事」だったという人が多いかもしれません。では、そもそも「お彼岸」って、なんのためにあるのでしょうか？

仏教には「此岸^{しがん}」と「彼岸^{ひがん}」という言葉があります。「此岸」は今私たちが生きている迷いや悩みの多いこの世界、「彼岸」は仏さまの悟りの世界をあらわします。

忙しい毎日、SNSや様々な情報で心がいっぱいになっていると、自分がどこに向かって生きているのか、わからなくなることがあります。そこで、お彼岸は「立ち止まるチャンス」です。お彼岸は、仏さまの世界を思い起こし、自分のいのちがどこから来て、どこへ向かっているのか——静かに見つめなおすための時間でもあるのです。お寺に来て手を合わせ、そしてお墓の前で手を合わせながら、「ああ、いろんなつながりの中で今の自分があるんだな」と感じることも、お彼岸の大切な意味です。

浄土真宗では、阿弥陀仏のはたらきを信じて、迷いの中にあるこの私が、仏さまの願いに支えられて生きていることに気づいていく、そんな「今」の人生が大切だと教えられています。彼岸は遠い世界の話ではありません。仏さまの願いは、今ここに届いています。その願いに出会うとき、私たちは自分の命がかけがえなく、つながりの中に生きていることを知るのであるのです。

9月 オススメの一冊



『たんじょうびはいのちのうち』

文 あきやまあきひろ／絵 山口けい子、文芸社刊
A5判、16頁、1100円(税込)

「きょうは わたしの たんじょうび たんじょうびには なにするの? ……ローソクともして ふきけすの」。北海道教区後志組無量寿寺住職のあさやまさんが書かれたお話です。ご住職は、はかない命の尊さと、光輝く命のありがたさを伝える活動をしてられます。16ページの絵本には、誕生日とご命日が、仏教的に端的に著されています。たしかにどちらも、ともに集い、ローソクに火をつけます。もちろん誕生日に手を合わせてもかまいません。無事に年を重ねることができた喜びを、仏さまにありがとうと報告しましょう。誕生日にもご命日にも、ご家族やお知り合いで集い、一緒に報恩感謝のお念仏を喜びましょう。(桐林)

永代経懇志ご進納

(ご進納日 7月15日～8月14日)

ボーズチャレンジ

早朝の別院に子どもたちが集合

8月3日(日)の早朝5時50分。「ボーズチャレンジ」でお坊さん体験



験をする子どもたちが別院に集まりました。はじめに「お供えとは何か、なぜお供えが必要か」を教わり、そして本堂の内陣に並んで立派にお勤めをしてくれました。今年は去年よりも多い14名が参加されました。



上) 本堂で僧侶とともに読経する子どもたち
中) お供えの意味や作法を教わる子どもたち。お寺のバックヤードツアーでお坊さんからじかに説明をきく、珍しい経験を楽しんだ

← 孟蘭盆会法要の様子

孟蘭盆会法要・全戦没者追悼法要・浄華堂追悼法要つとまる

8月15日(金)午後1時から本堂で孟蘭盆会法要・全戦没者追悼法要、輪番法話ののち、浄華堂追悼法要をお勤めしました。戦後80年を迎えた今年、多くの方にお参りいただきました。



第50回 西別院・電信通

納涼ぼんおどり開催

第50回西別院・電信通ぼんおどりを8月3日(日)盛大に開催しました。50年の節目に、10年ほど前から踊らなくなっていた『本願寺音頭』を復活させることになり、事前練習会を開いて、みんなで稽古してきました。



当日の来場者は約600人。『本願寺音頭』、また北海道では定番の『北海道音頭』を踊って夏の夜を楽しみました。小学生の来場者から、「屋台の食べ物には毎年ちよつとずつ変わっているね」「本願寺音頭は初めてだけど、踊れたよ」など嬉しい声が聞かれました。

自他ともにたいせつな言葉紹介 **人我兼利** じんがけんり

信不信ともに
仏法を心に入れて
聴聞申すべきなり

これは蓮如上人のお言葉です。『蓮如上人御一代記聞書』に、「陽気、陰気とてあり。されば陽氣をうる花はやく開くなり、陰氣とて日陰の花は遅く咲くなり。かやうに宿善も遅速あり。されば已今当の往生あり。弥陀の光明にあひて、はやく開くる人もあり、遅く開くる人もあり。とにかくに、信不信ともに仏法を心に入れて聴聞申すべきなりと云々」とあります。

日当たりによって花の咲く速さが変わるように、私たちの信心決定にも個人差があります。私たちは何かにつけて速い遅いと区別しがちですが、遅速には関係なく、間違ひなく救われてゆける私たちなのです。(松原)